

## 第3回 Korea-Japan-China Pediatric Heart Forum 報告記(2007年3月31日 Seoulにて)

日本小児循環器学会広報・交流委員会  
赤木 禎治(岡山大学附属病院循環器疾患治療部)

日本小児循環器学会広報・交流委員会は2005年7月の第41回日本小児循環器学会総会(石澤 瞭会長)のときに開催された「Asian session」を第1回として、東アジア、特に日本、中国、韓国の小児循環器領域の学術交流を活発化しようとして開始された学術集会である。会は開催国の小児循環器学会と並行して開催され、できるだけ簡素に、ただしディスカッションは活発にというコンセプトで行われている。会の名称は開催国を最初に、次回開催国を2番目にというルールになっている。2006年9月には第2回集會を上海で行い、今回で最初の1周が終わったことになる。今回はソウル市内のYonsei(延世)大学の会議場で約200名の参加者を集めて開催された。午前中の一般演題(20演題、日本:8演題)に続き、午後からはFallot四徴症の遠隔期予後、Fontan術後の問題点という2つのシンポジウムが行われ、3カ国のそれぞれのデータが提示され、討議が行われた。また、同時にポスターセッション(34演題、日本:6演題)も並行して行われた。臨床研究だけでなく基礎研究においても中国、韓国のレベル向上は著しく、われわれが学ばべきところも数多くある。学会中の昼食は病院内のレストランが使用されたが、韓国食、日本食、中華と独立した3つのモダンなレストランがあり、日本食レストランには生簀と板前さんもいた。病院内の施設もすばらしく、医療制度の違いがあるとはいえ、日本の病院の貧弱さをひしひしと感じる結果となった。学会終了後の懇親会、二次会のカラオケ大会と、東アジアの学術交流を進めるうえでの大切なふれあいの場になったと思う。若いドクターにはAHA、ACCといった学会での発表への踏み台として、英語でのpresentationのとてもよい機会だと思う。集会翌日には、希望者に病院ツアーが計画され、ソウル市内の主要な病院の見学が行われた。ITも含めた病院施設には目を見張るものがあったとの感想が寄せられた。

今回は、今後もデータを共有しながら、この分野の発展に寄与していくための友好的な基盤が築かれた学会でもあった。

第4回 Japan-China-Korea Pediatric Heart Forumは2008年7月の第44回日本小児循環器学会総会(中澤 誠会長)で開催される。この会の新たなスタートが会の発起人である中澤先生の下で開催されるのもうれしい巡り合わせである。お忙しいなか、国内より演題提出いただいた先生方に感謝すると同時に、これまで参加いただけていない先生方には来年はぜひ演題を出していただき、一人でも多くの会員にこの会の重要性和楽しさを感じていただきたいと願っている。

プログラム請求先: 〒290-0512 千葉県市原市鶴舞575  
千葉県循環器病センター成人先天性心疾患診療部 丹羽公一郎  
TEL: 0436-88-3111, FAX: 0436-88-3032  
E-mail: KNIWA@aol.com